

公益財団法人

環日本海 環境協力センター

Northwest Pacific Region
Environmental
Cooperation Center

国際協力で、海洋環境保全へ

設立の目的

日本海及び黄海は、その沿岸諸国にとって、漁業資源、海上交通、レクリエーションの場等の恩恵をもたらしている共有財産である。

しかしながら、近年、沿岸地域では、工業化の進展や都市部への人口集中、漁業や海上交通による利用の拡大等に伴い、今後の海洋環境の悪化が予想され豊かな漁業資源や沿岸地域の観光等に重大な被害を及ぼすことが懸念されている。

環日本海時代の到来を迎え、海洋汚染の減少を図り、環境を保全することは、沿岸に居住する者にとって共通の使命であり、そのためには、沿岸諸国や地域、

各種の団体等が連携協力し、すべての主体の参加のもとに国際的な取組みとして各種の事業を展開すべきであるとともに、それらに対応するための拠点づくりが必要である。

このため、公益財団法人環日本海環境協力センターは、現在及び将来の世代の人間が日本海及び黄海がもたらす健全で恵み豊かな環境の恵沢を享受するとともに、良好な環境が将来にわたって維持されるよう、沿岸諸国や地域等の連携協力のもとに、沿岸地域の流域管理をも視野に入れた日本海及び黄海における海洋環境保全に寄与することを目的に活動している。

組織概要

名称	公益財団法人環日本海環境協力センター Northwest Pacific Region Environmental Cooperation Center (略称 NPEC (エヌペック))
所在地	富山県富山市牛島新町5番5号 タワートリプルワン 6F (射水分室) 射水市中太閤山17番1号 富山県環境科学センター内
理事長	鈴木 基之
設立	1998年9月1日
基本財産	250,000千円

沿革

1997年4月	「環日本海環境協力センター」を設立 事務所を富山市安住町7番18号に設置
1998年9月	環境省から「財団法人環日本海環境協力センター」 として設立許可
1999年4月	北西太平洋地域海行動計画 (NOWPAP) 政府間 会合において、「特殊モニタリング・沿岸環境評価 地域活動センター (CEARAC)」に指定
2001年9月	事務所を富山市牛島新町5番5号に移転
2013年4月	公益財団法人に移行

組織図



環日本海地域のネットワークづくり

国際交流・人材育成に関する事業の概要

北西太平洋(日本海及び黄海)の海洋環境を保全するためには、沿岸諸国や地域等が、連携協力して取り組むことが大変重要です。このため、沿岸諸国や地域等の相互の対話と交流を促進するための各種事業を実施しています。

また、沿岸の各国・地方自治体がそれぞれ又は共同で実施する環境保全施策を支援するため、環境関連情報の収集・提供、人材の育成や人的ネットワークづくりを推進しています。



環日本海諸国図(通称:逆さ地図)
「この地図は富山県が作成した地図を転載したものです。(平24情使第238号)」

国際交流・人材育成に関する事業の活動内容

1 「北東アジア地域自治体連合環境分科委員会」の推進

「北東アジア地域自治体連合(通称:NEAR)」の環境分科委員会において、富山県がコーディネート自治体に選出され、その運営業務をNPECが行っています。



第10回環境分科委員会
(2011年、富山県)

3 環境教育の推進

北東アジア地域の青少年を対象として、環境保全に関する体験学習や国際交流を通じて、自ら考え行動できる人材を育成する「環境体験プログラム」を実施しています。



北東アジア地域環境体験プログラム
(2012年、富山県)

2 沿岸地域との環境協力の推進

沿岸地域の地方自治体等との環境協力事業を効果的に推進するため、環境保全分野の情報を収集し、事業実施に向けての意見交換等を行っています。



第6回国際環境フォーラム
(2012年、ロシア沿海地方)

4 海洋環境保全に関する国際会議の開催

北西太平洋の海洋環境の状況やその保全のための取組みに関する認識を深めるため、富山県等と連携して各種の国際会議を開催しています。



北東アジア環境パートナーズフォーラムinとやま
(2007年、富山県)

環日本海の環境保全に向けた調査研究

環境保全に関する調査研究の概要

北西太平洋及びその周辺地域の環境保全を的確に進めるためには、実態の把握や汚染のメカニズム等に関する調査研究を実施するなど、正確で広範な科学的知見を得ることが必要です。

このため、沿岸の各国・地域の調査研究機関等の協力も得ながら、各種の調査研究を実施しています。



藻場復元マップ事業での調査

環境保全に関する調査研究の活動内容

1 富山湾プロジェクトの推進

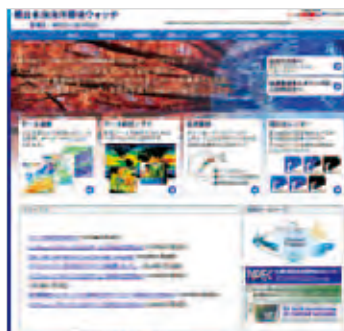
人工衛星によるリモートセンシングデータを利用した沿岸環境評価手法の開発に向けて、富山湾における水質汚濁に係る現場データ及び衛星データを取得し、富山湾をケーススタディとして実施しています。また、富栄養化状況評価手順書の改良のための調査研究を行っています。



富山湾プロジェクトによる水質調査

3 衛星リモートセンシングデータの提供

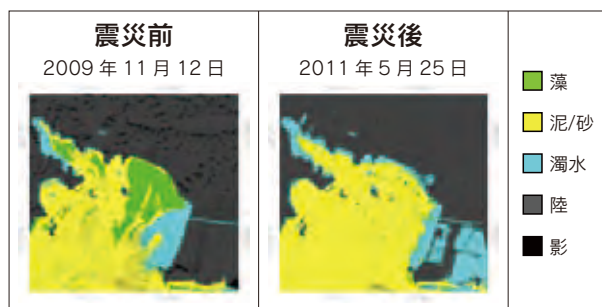
2002年に環境省がNOWPAPの活動を推進する目的で富山県環境科学センター内に設置した「環日本海海洋環境ウォッチシステム」により、NOWPAP地域のクロロフィルa濃度(植物プランクトン濃度の指標)、海表面水温等のデータをホームページ上にて提供しています。



環日本海海洋環境ウォッチシステムホームページ

2 藻場復元の支援

東日本大震災により被害を受けた宮城県沿岸域の藻場について、人工衛星画像解析によりその復元再生を支援するためのマップの作成に取り組んでいます。2012年度からは、富山湾においても、人工衛星画像の解析による藻場分布の現状把握のための調査を実施しています。



リモートセンシングによる解析例(宮城県松島湾)

4 中国遼寧省との環境共同調査研究

近年、中国で問題が深刻化している大気汚染について遼寧省と共同で環境調査に取り組むこととし、2008年度からは黄砂(砂塵嵐)、2012年度からは自動車排出ガスをテーマに、遼寧省での調査や市民向け報告会の開催、遼寧省からの研修員の受入れなどを実施しています。



大気環境共同調査研究での研修

海洋ごみ問題の解決に向けて

漂流・漂着ごみ対策推進事業の概要

漂流・漂着ごみは、生態系や海浜景観への影響など国際的な海洋環境問題となっています。

このため、NPECが培ってきた沿岸の各国・地方自治体とのネットワークも活用し、国際的な調査を含む、漂流・漂着ごみ対策を推進します。



子供たちによる海辺の漂着物調査(ロシア)

漂流・漂着ごみ対策推進事業の活動内容

1 海洋ごみモニタリング調査(1996年度～)

北西太平洋の漂流・漂着ごみについて、科学的な手法により、国際的な実態調査を行っています。

日本、中国、韓国及びロシアの地方自治体やNGO等の参加を得て、海辺に漂着したプラスチック、紙類等の個数・重量を調査するもので、沿岸住民の「ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心」を育むことにも資するものです。



漂着物調査結果 (2003～2012年平均)

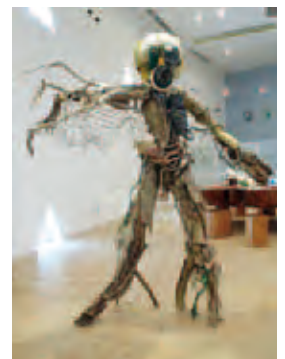
2 海洋ごみ問題に関する普及啓発

調査結果の報告書やその概要版、啓発冊子を作成・配布しているほか、各種の検討会、講演会の開催により、関係者間で情報・意見を交換するとともに、広く海洋ごみ問題について普及啓発しています。

また、多くの市民が海の環境保全について関心を高めるため、漂着物アート展を開催しています。



漂着物アート制作
協力
:富山大学芸術文化学部
:氷見市立窪小学校
:氷見市海浜植物園



～NOWPAP海洋ごみ活動に対する貢献～

NPECで作成してきた報告書や普及啓発資材は、NOWPAPにおける海洋ごみ対策促進のために利用されています。



海洋ごみパンフレット



リサイクル事例集

NOWPAP4か国(日本・中国・韓国・ロシア)はNPECの海洋ごみモニタリング調査の経験をもとに作成された「海辺の海洋ごみモニタリングガイドライン」を利用して、北西太平洋沿岸で海洋ごみ調査を実施しています。NPECもこの調査に参加し、4か国の海洋ごみの実態把握に貢献しています。



モニタリングガイドライン

北西太平洋地域海行動計画の推進

特殊モニタリング・沿岸環境評価地域活動センター

半閉鎖的な日本海を環境を保全していくためには、上流の黄海を含む沿岸の関係諸国が協力して取り組むことが必要です。そのためCEARACでは、各国の専門家や政府関係者と協力して、北西太平洋の赤潮や富栄養化、海洋生物多様性の保全等の環境問題に取り組んでいます。

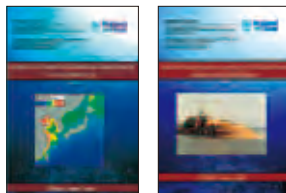


NOWPAPの地理的範囲

NOWPAP地域活動センター（CEARAC）の活動

1 ガイドラインの作成

北西太平洋の海洋環境保全のための最新の科学的な知見を集めたガイドラインや対策事例集を作成しています。



富栄養化モニタリングガイドライン HAB対策事例集

2 国際的な専門家会合の開催

日本、中国、韓国、ロシアなどの専門家を集めたワークショップやシンポジウムを定期的に開催しています。



環日本海生物多様性フォーラム (2010年、富山県)



海洋生物多様性及び富栄養化に関する専門家会合(2013年、富山県)

3 活動成果の発信

英語によるウェブサイトを設置し、CEARACの活動の成果を広く世界に発信しているほか、各国語のパンフレットを作成するなど、専門的な内容を分かりやすく普及啓発しています。



リモートセンシングのポータルサイト

海洋捕未発生抑制に関する優良事例集

さらに、衛星リモートセンシングデータ活用のためのトレーニングを、NOWPAP各国で定期的に開催しています。



リモートセンシングデータ解析トレーニング (2011年、ロシアウラジオストク)

～生物多様性フォーラムの開催～

2010年生物多様性条約第10回締約国会議(COP10:名古屋)の開催に合わせて、富山県で生物多様性フォーラムを開催しました。フォーラムでは、国連環境計画(UNEP)やNOWPAPの海洋生物多様性の保全にかかわる取組みが紹介されたほか、NPECが実施した富山湾の海洋生物多様性の保全のための環境評価について報告しました。フォーラムの開催結果や富山県の取組みは、COP10のサイドイベントとして開催されたUNEPのシンポジウムでも報告されました。

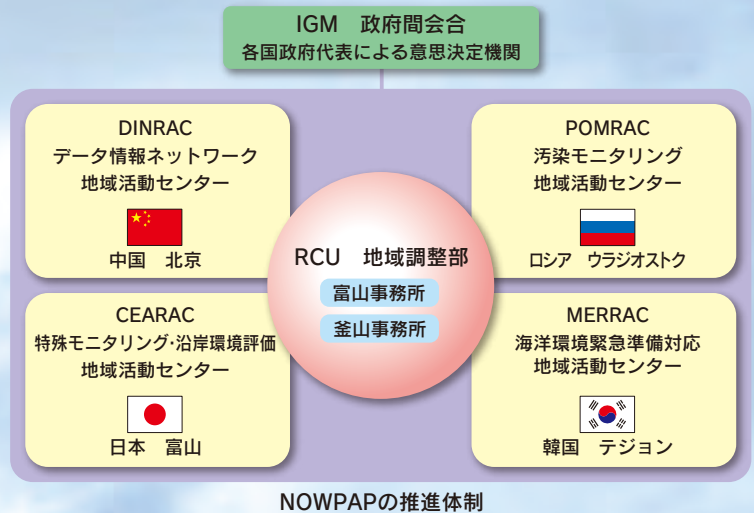


生物多様性フォーラム (2010年、富山県)

北西太平洋地域海行動計画 (NOWPAP) とは？

「北西太平洋地域における海洋及び沿岸環境の保全・管理・開発のための行動計画 (NOWPAP)」は、国連環境計画 (UNEP) が提唱する地域海行動計画の1つであり、北西太平洋の環境保全を目的として、1994年に日本、中国、韓国、ロシアの4か国により発足されました。

NOWPAPの活動を推進するために、各国に一つずつ地域活動センター (RAC) が設置され、個別の事業を担当しています。またNOWPAPの本部機能を持つ地域調整部 (RCU) が富山市と韓国・釜山市に設置されています。



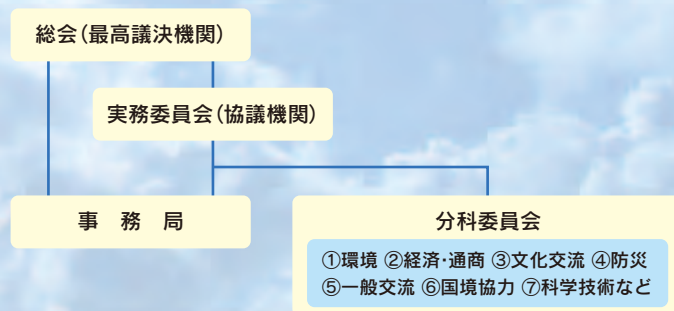
CEARACとは？

NOWPAPの活動をより円滑に実践するため、各参加国に一つずつ地域活動センターが設立されました。NPECは特殊モニタリング・沿岸環境評価地域活動センター (Special Monitoring & Coastal Environmental Assessment Regional Activity Centre : 略称 CEARAC) に指定され、主に有害藻類の評価、新しい評価手法 (リモートセンシングなど) の確立、陸上起源の海洋ごみ問題等に関して地域的な協力の推進に取り組んでいます。

北東アジア地域自治体連合 (NEAR) とは？

北東アジア地域自治体連合 (The Association of North East Asia Regional Governments: 略称 NEAR) とは、北東アジア地域の交流・協力の促進、共同発展及び世界平和への寄与を目的に、1996年に設立された地方自治体による国際組織です。現在、日本・中国・韓国・北朝鮮・モンゴル及びロシアの6か国71自治体が会員としてNEARに参加しています。(2013年3月現在)

NEARの実施体制



環境分科委員会とは？

NEARの組織には、会員自治体から提案されたプロジェクトを推進する分科委員会が設置されています。富山県は環境分科委員会の連絡・調整を行うコーディネート自治体を務めており、NPECは富山県のコーディネート業務を補佐しています。

